

全ての会議（代表質問・一般質問の1回目を除く）での

「一問一答方式」の採用について

1 諮問事項の概要

〔提案理由〕 市民に開かれた議会、より分かりやすい議会を目指し、また議会での議論の活性化を図るため、代表質問及び一般質問の1回目を除く全ての会議において「一問一答方式」を選択できるようにする。

〔概要説明〕 「一括質問・一括答弁方式」は、まとめて質問するため、質問全体の趣旨がわかりやすい反面、答弁もまとめて（一斉に）行われるため、質問と答弁との関連性が分かり難いという難点がある。一方、「一問一答方式」は、案件に対する疑問点をひとつずつ取り上げ、納得いくまで質疑、答弁を繰り返す対話方式になることから、論点・争点がわかりやすく、深く掘り下げた審議・議論も可能となる。

2 本市議会における取扱い及び例外規定

【原則】

本会議及び委員会ともに、「一括質疑・一括答弁方式」を採用している。

【例外規定】

	本会議	予算特別委員会	決算特別委員会
	議会慣例について	当初予算等の審査方法の運用について	決算認定案等の審査方法の運用について
規定	64 一般質問における登壇しての1回目の質問は、「一括質問・一括答弁方式」とし、自席での2回目以降の質問は「一問一答方式」でも「一括質問・一括答弁方式」でもよいこととしている。	3 予算特別委員会の審査方法 (1)エ 委員会における質疑は、1回目の質疑は一括質疑・一括答弁方式で2回目以降は自由とする。(以下、略)	4 総括質疑方法等 (1)キ 総括質疑の方法は、1回目の質疑は一括質疑・一括答弁方式で2回目以降は自由とする。

3 県内各市における「一問一答方式」の導入状況

	導入状況			
	導入している		導入していない	その他
	全ての場面	一部の場面		
本会議	2市	13市	3市	1市
委員会	13市	4市	2市	－

※詳細については、資料2-2を参照

県内各市における「一問一答方式」の導入状況

導入状況欄の凡例：○→全ての場面で導入、△→一部の場面で導入、×→導入していない

	本会議		委員会	
	導入 状況	概 要	導入 状況	概 要
小田原市	△	一般質問・代表質問の2回目以降の質問のみ可能	△	予算特別委員会・決算特別委員会の2回目以降の質問のみ可能
横浜市	×		○	予算特別委員会・決算特別委員会は一問一答方式、常任委員会・その他の特別委員会は規定なし
川崎市	△	一般質問、代表質問・代表質疑の再質問・再質疑は通告時の届け出により選択可能	△	予算審査特別委員会、決算審査特別委員会の総括質疑の再質疑は通告時の届け出により選択可能 決算審査特別委員会分科会は一問一答方式 常任委員会は規定なし
相模原市	△	一般質問は選択可能	○	規定はないが、一問一答方式
横須賀市	△	2回目以降は一問一答方式	△	予算決算常任委員会の総括質疑及び部門別常任委員会は一問一答方式
平塚市	△	3月定例会の代表質問以外は選択可能	○	
鎌倉市	△	2月定例会の新年度予算関係議案に対する代表質問及び総括質問（無所属議員）を除き、原則、一問一答方式	○	
藤沢市	△	一般質問は選択可能	○	規定はないが、一問一答方式
茅ヶ崎市	△	一般質問は選択可能	○	
逗子市	△	一般質問・代表質問のみ可能	○	
三浦市	○	一括方式との選択制	○	
秦野市	△	一般質問の2回目以降は可能	○	
厚木市	○		○	
大和市	×		○	
伊勢原市	△	一般質問の2回目以降は可能	○	
海老名市	※	※規定はないが、事実上、一問一答方式となることもある。	△	予算決算常任委員会の各分科会では一問一答方式も認めている。
座間市	×		×	
南足柄市	△	一般質問・代表質問の2回目以降の質問のみ可能	×	
綾瀬市	△	一般質問は可能	○	再質疑の回数は無制限、質疑時間は答弁も含めて1人50分以内